

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度 新座市子どもの放課後居場所づくり事業 運営委員会（第3回）
開 催 日 時	平成29年3月17日（金） 午前10時から午前11時15分まで
開 催 場 所	第二庁舎5階 会議室5
出 席 者	金子 廣志 岩岬 正浩 山崎 深雪 高橋 靖子 須田 邦彦 荒井 マサ子 石原 志穂 伊藤 進 野田 真木子 島倉 佐和子 中野 仁美 高野 章 前川 美樹 宮川 みさ子 大熊 正 菅野 潤一 鈴木 義弘 増子 義久 渡辺 哲也 計19名
事 務 局 職 員	生涯学習スポーツ課 富樫主査、藤田主任、天倉主事、武嶋
会 議 内 容	1 開会 2 挨拶 3 議事 (1) 各ココフレンドの活動状況報告 (2) 新規開設校について (3) 子どもの放課後居場所づくり事業実施要綱の改正について (4) ココフレンド各種マニュアルの策定について (5) 運営委員会今後のスケジュール 4 その他 5 閉会
会 議 資 料	・次第資料 ・委員名簿 ・ココフレンド緊急時対応マニュアル（案）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ココフレンド衛生管理マニュアル（案） ・エピペンガイドブック
その他の 必要事項	特になし
審 議 の 内 容 （審議経過、結論等）	
<p>1 開会（富樫主査）</p> <p>2 挨拶（岩岬副委員長）</p> <p>3 議事（進行：岩岬副委員長～金子教育長 説明：富樫主査）</p> <p>(1) 各ココフレンドの活動状況報告 （資料P 1～8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月の会議時に報告した登録人数よりも若干増加したが、高学年は増えていない。 ・ 低学年の登録率は高く、1・2年生は7割を超えている。学年が上がるごとに登録率が下がる傾向となっている。全体の登録率は各ココフレンド5割程度となっている。 ・ 2学期以降の参加人数の平均は、各ココフレンド20人から40人程となっている。3学期は活動日数が少ないこともあり、各ココフレンドとも、特に1、2月の参加人数が減っている。 ・ 今年度から冬時間は、お迎えがある場合午後5時まで参加できるようになったが、午後5時まで参加する児童はあまり多くなく、2段階の下校になったことで若干のやりづらさがあったということである。 ・ 今年度から開室することになった1月4日から7日の参加人数は少なく、特に1月4日は各ココフレンドとも5人前後の参加人数になっている。 ・ 今冬は厳しい寒さと乾燥が続き、1月中旬からインフルエンザ様疾患による欠席者が増加し、各学校で学級閉鎖が増えた。このため、各ココフレンドで参加人数が一桁になる日があった。 ・ 全体的に3学期の参加人数は、1、2学期と比べて少なくなっている。 <p><東野ココフレンド：富樫主査代読></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間で24のイベントを実施した。そのうち4回放課後児童保育室と一緒にいった。中でも放課後児童保育室から声を掛けていただいて参加した、クロネコヤマトのドライバーの方々による本格的な交通安全教室はとても勉強になった。また、新座の郷土昔話では、子どもたちが真剣に耳を傾けていた。 ・ 1年生のこの一年での成長が素晴らしく、うれしく思っている。 <p><石神ココフレンド：中野コーディネーター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の募集が終わったところであるが、新一年生を入れて登録者は300人を超えると思われる。 ・ 新2年生の申込人数が現1年生の人数とほぼ同じなので、継続して登 	

録しているようである。しかし、2年生になると徐々に参加人数が減ってくるのが現状である。

- ・ 放課後児童保育室の利用が終わった5年生が、ココフレンドに登録するということもあるようだ。
- ・ 日々の参加人数は平均して10数人であるが、参観日などは70人を超えることもある。
- ・ 1月30日の代休日は、参加者が1人であった。午前中の開室日は毎回人数が少ない状況である。代休日に家族と過ごしているのであれば、良いことだと思う。
- ・ 石神ココフレンドのイベントは、事前申込制ではなく、当日参加したい子が参加する。
- ・ 夏休みの読み聞かせや音楽会では、放課後児童保育室に声を掛けて一緒に楽しんだ。
- ・ 春休みに、郷土昔話の紙芝居を行っていただく予定なので、放課後児童保育室の子どもたちにも参加してもらおう。

<東北ココフレンド：富樫主査代読>

- ・ 日々の参加人数は1月の平均が16人、2月平均が29人であった。2月は保護者会の日に60人から90人の参加があったからであり、全体に冬の期間は低迷している。
- ・ 冬休みに音楽室で、ピアノ、リコーダー、打楽器で即興演奏をする音楽パーティーを行った。
- ・ 2月に3週連続で料理教室を開催した。ホットケーキ、焼きそば、お好み焼きを作り、参加児童はのべ120人で大変好評であった。今年は講師を招かず、スタッフだけで実施した。

<新堀ココフレンド：高野コーディネーター>

- ・ 1学期に比べて2学期、3学期になると、ココフレンドでの子どもたちの過ごし方が自主的になってきた。午後5時までの活動が定着してきて、子どもたちの成長を感じる。
- ・ 昨年までは折り紙教室などのイベントを平日もやっていたが、当日にやりたがらない子どもたちもいるので、今年度は長期休業中に開催し、子どもたちが参加するイベントを選択できるようにした。
- ・ 新堀ココフレンドは開室から4年が経とうとしているが、スタッフの入れ替わりがほとんどない。子どもを理解することや、どのように接したらよいか、どう声かけをしたらよいかなど、経験を積むうちに力を付け、生きがいや達成感を感じているようである。
- ・ 冬時間に限らず、保護者のお迎えが増えてきている。スタッフと保護者がコミュニケーションをとれるようになった。
- ・ スタッフ間での共通理解として、些細なことでも子どもを褒め、保護者にも伝えるようにしている。
- ・ 冬時間の下校は、スムーズにできた。4時半以降に残った子どもたちは、室内でゲームなどをして仲良く過ごすことができた。

<四小ココフレンド：前川コーディネーター>

- ・ 間もなく開室から3年が経つ。四小ココフレンドもスタッフの入れ替わ

りがほとんどなく、子どもたちもスタッフも落ち着いて活動している。

- ・ 懇談会などで90人を超えることがあるが、ココフレンドの活動場所が離れているので、お迎えまで全員がスタッフルームで過ごすことにしている。スタッフは慣れているので、机や椅子がなくても上手に子どもたちに接している。
- ・ 放課後児童保育室に行っていた子がココフレンドに移ってくることもあり、放課後児童保育室の狭あい化是正の一助になっていると思う。
- ・ 家庭の都合で毎日利用している子や、自分の意志ではなく参加している子もいる。スタッフが子どもに寄り添った見守りをして、ココフレンドが子ども達の大事な居場所になっている。

<野寺ココフレンド：富樫主査代読>

- ・ 1月6日（金）に市民安全課の方に「地域ぐるみの防災対策」講座を開いていただいた。38人の参加があり、クイズ形式で様々な防災知識を楽しく学んだ。消費期限の近い非常食をおみやげにいただき、子どもたちは大喜びだった。子どもたちの知識として少しでも記憶に残ってくればよいと思う。このイベントは継続して行っていきたい。
- ・ 冬時間が終了して、高学年の子どもたちが徐々に戻ってきている。月曜日は全学年が5時間授業のため、週で一番賑やかになる。高学年の子がいると大きな遊びの集団が仲良くまとまり、元気に遊んでいる光景が多く見られるようになる。
- ・ 年間32のイベントを実施した。年間を通してたくさんの子供たちから楽しみにしているという声を聞く事ができた。家庭の事情で来室する子も少なくないが、ココフレンドを楽しみに、放課後の時間を過ごしてくれる子どもたちが増えるといいと思う。
- ・ 今年度も大きなケガや事故もなく、一年間を過ごすことができた。

<栗小ココフレンド：宮川コーディネーター>

- ・ 栗小ココフレンドは開室から2年が終わろうとしているところである。
- ・ 登録児童は低学年が多く高学年が少ない。それに比例して日々の参加人数も低学年が多く高学年が少なめという状況である。代休日については、参加人数自体が少ないが、低学年の参加児童はほとんどなく、高学年が誘い合わせて参加するという傾向がみられる。
- ・ 冬時間は、お迎えのある児童が30分間スタッフルームでスタッフとの貴重な時間を過ごせた。郷土かるたや将棋、オセロなどをして遊び、お迎えの保護者とスタッフがコミュニケーションを取ることもできた。
- ・ 最近子どもたちの帰り支度が速くなり、帰りの会の時間を多くとれるようになった。帰りの会でその日ココフレンドで楽しかったことを、たくさんの子が発表してくれている。自然と拍手が起こり、子どもたちの国語力も高まってきているように思う。
- ・ 年間を通して季節の掲示物を子どもたちがスタッフと一緒に作っている。継続して行うことで子どもたちとスタッフの人間関係が築かれてきているように感じる。
- ・ 子どもたち一人一人を把握して、その子に合った対応の仕方をすることが大切であると、スタッフの方々から聞くことが増えてきた。情報交換をしながら見守っていきたい。

<新開ココフレンド：富樫主査代読>

- ・ 昨年5月26日に開室した。最初は戸惑うことが多かったが、1年経つうちに少しずつ軌道に乗ってきた。
- ・ 月ごとの行事に合わせて毎月一つテーマを決め、重点的に取り組んでいる。例えば、2月は節分に向けて鬼のお面作りや豆まきの箱を折り、3月は姉さま・兄さま人形、お雛様作り、また、学校の今月の歌を帰りの会で皆で歌ったりしている。
- ・ 活動中子どもたちは、お互いに折り合いをつけるのが難しい場面も見られるが、その都度個々の言い分をよく聞き、対応することにより、皆で楽しく過ごしている。

(金子教育長より挨拶)

(2) 新規開設校について

(資料P9～P12)

・平成28年度の新規開設校については、第4次新座市基本構想総合振興計画後期基本計画に基づき、実施校の拡大を図るものとして、新設する方向で調整を進めてきた。新規開設に当たり3つの条件とその他現在の状況を鑑み、大和田小学校、片山小学校が良いのではないかと前回の会議でもお話させていただいた。その後、市長や財政当局等とも調整を重ねてきた結果、平成29年度については、財政的にも大変厳しい状況ではあるが、市議会からの開設校拡大の要望もあり、文部科学省から示されている放課後子ども総合プランにおける国全体の目標として、平成31年度までに全ての児童の安全・安心な居場所を確保し、全ての小学校区において放課後子供教室を実施するという方針を踏まえ、計画よりも少ないが、1校を新規開設することとなった。

新規開設の条件として、①スタッフルームとして1教室又は教室の一部を借用できること、②子どもたちの活動場所として開放できる教室等があること、③放課後児童保育室が、大規模化や狭あい化していることという条件に照らし合わせたところ、条件に一番近い大和田小学校に開設することで決定した。

- ・ 大和田小学校は他の小学校に比べ児童数が大幅に多くなっている。
- ・ 放課後児童保育室は、大幅に定員を上回る入室者数になっており、昨年の夏休みは5、6年生の入室もあり、現在活動している教室だけでは収容することができず、体育館と特別教室を学校から借用して保育を行ったということである。平成29年度入室予定児童数は197名ということであり、今年度以上の大規模化・狭あい化が予想される。
- ・ 大和田小学校は2月下旬に増設の校舎が完成し、4教室が増えることとなった。それにより1階の現在の図工室をココフレンドのスタッフルームとして使用できることになった。

国が平成26年7月に策定した放課後子ども総合プランにおいて放課後児童保育室と放課後子供教室との連携を強く推奨していること、本市においても平成32年度までに全ての小学校にココフレンドを開設するという計画を立てているので、学校・放課後児童保育室・ココフレンドの三者が連携して、放課後における子ども達の居場所を総合的に確保するために協力していかなければならないと考えている。

このような状況から平成29年度の新規開設校は大和田小学校としたことをご報告させていただく。

(資料に沿って開室までのスケジュールを説明)

6月上旬の開室を目指して準備を進めている。

委員長 大和田児童保育室は非常に狭あい化しているということもあるので、大和田ココフレンドについては長期休業中の午後も開室する予定で進めている。

(3) 子どもの放課後居場所づくり事業実施要綱の改正について

(資料P13～P16)

- ・ 長期休業期間中の開室時間の延長について、保護者からも多くの要望をいただいている。また夏季休業中の放課後児童保育室の大規模化・狭あい化から午後の開室について早期の実施が望まれていた。平成28年度東北小学校において試験的に夏季休業日のみ午後の開室を実施したところ、保護者にも好評であり、夏季休業中の放課後児童保育室の入室者数が減少した。事業実施については効果があったと考えている。そこで、平成29年度は東北小学校と新規開設校の大和田小学校で、長期休業中の午後も開室することとした。この決定により実施要綱の改正が必要となったものである。
- ・ コーディネーターの任用については、平成24年度の事業開始以来、新座市臨時職員の任用規則により第二種臨時職員として任用を行っている。しかし、本事業は来年度で6年目となり、後期基本計画においても青少年健全育成の推進に位置付けられており、今後も継続して事業を実施していく予定である。このことから、コーディネーターは臨時的な任用ではなく、恒常的な任用が必要になってくる。そこで、平成29年度から非常勤一般職員として任用することとした。

委員長 臨時職員と非常勤一般職員の職の違いは何か。

事務局 臨時職員は臨時的に業務が発生した場合、例えば産休代員や特別な事業が発生した場合などの臨時的な任用であり、任用期間は半年間である。非常勤一般職員は恒常的な業務に関する任用で、任用期間は1年間である。

委員長 来年度、大和田小学校でも長期休業中は午後5時まで開室するので2校実施になる。長期休業中ということなので、夏休みだけでなく春休み、冬休みも午後まで開室ということによいか。

事務局 そうである。

委員長 時間の延長は他の学校にも拡大していきたいと考えている。まず2校実施して、データを取って好評であれば更に拡大していきたい。

(4) ココフレンド各種マニュアルの策定について (説明：天倉主事)

別添資料に沿って説明した。

委員 学級閉鎖決定の後、給食後下校になる場合もあると思うが、その場合のココフレンドの対応はどうか。

事務局 基本的にココフレンドは給食のある日に開室ということになっているので、学校側から連絡を早めにいただければ対応できる。

(5) 運営委員会今後のスケジュール

(資料P 17)

・平成29年度についても、5月15日(月)、11月、3月の年3回の会議を予定している。新年度になったら第1回運営委員会の御連絡をさせていただく。

(新堀ココフレンド高野コーディネーターより資料の実施日数についての訂正
6月の実施日数13日→22日)

委員 長期休業中の午後も開室した場合、子ども達のおやつなどはあるか。

事務局 今年度東北小学校で夏季休業日の午後も開設したが、特にお茶菓子などを用意したことはなかった。

委員長 飲み物はどうだったか。

事務局 各ココフレンドで、ジャグなどに水等の飲み物を用意していたようである。

4 その他

5 閉会 (富樫主査)